

第3学年4組 音楽科学習指導案

平成31年5月23日(木) 第3時 第1音楽室 指導者 中山 美奈子

1 題材「アカペラによる響きの美しさを味わいながら合唱をしよう」(3/3)

(1) 題材目標

- ① 歌詞の内容や曲想と、声部の役割や全体の響きとの関わりを理解し、曲想や全体の響き、言葉の特性に応じた発声で歌唱することができる。 →【知識及び技能】
- ② 他声部の響きを聴き合って、音の重なりや曲の緩急がもたらす曲のイメージを感受し、試行錯誤しながら表したい音楽表現について考えることができる。 →【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 曲にふさわしい歌い方を考える活動を通して、仲間と心を合わせて歌う楽しさや表現方法によって深まる合唱の楽しさに気づき、心に響く合唱を求めようとする。 →【学びに向かう力、人間性等】

(2) 題材構想

本学級の生徒は、合唱コンクールの学級学年合唱の他に、卒業式でオーケストラ伴奏による混声四部合唱を経験している。廊下で別パートの友達とハーモニーを楽しみながら歌って歩く姿や、修了式後の学級の時間には自主的に合唱して担任に感謝を伝える姿があり、歌うことが生活の中に根付いている。授業では2年生までに、詞や楽譜に書かれた音楽記号をよく見て作詞者作曲者の思いを知り、表現を工夫する学習を繰り返し行ってきた。3年生になり、作詞者や作曲者が詞や楽譜には書ききれない思いを汲み取り、どのような表現の工夫をすべきかを考える学習を行った。

そこで、より和声的な響きや旋律の重なり方を意識し、充実した表現活動の工夫を経験させるために、アカペラ「今、ここに」を題材に選んだ。作曲した松下耕氏は、楽譜の解説欄に次のように思いを述べている。「人生で最も素晴らしいもののひとつが、家族はもちろん、友の存在でありましょう。(中略)合唱は、お互いの信頼がないと成り立ちません。神様は、なんと素晴らしい世界を私に与えてくださったのだろう、(後略)」。合唱練習を通して作詞者作曲者の思いを感じ取り、仲間と話し合う活動を通して、よりより発声や表現方法について考えることができるようになってほしい。そして、楽譜に書かれた音楽記号に加え、フレーズや全体の構成にふさわしいアゴーギクを用い、音を合わせる楽しさや合唱の深味に気づいてほしいと願い、本題材を設定した。

本題材では、曲のイメージや四声の響きを感受し、歌唱表現の工夫を、曲にふさわしい表現と根拠の関わりを基に考える。作詞者作曲者の願いを表現する活動を通して、共感するとともに合唱の楽しさや深味を感じながら歌唱表現を考えることができるようにさせたい。そのために、曲にふさわしい表現と根拠の関わりを基に歌唱表現を工夫し、聴き手の心に響く表現方法をグループで考え練習する場面を設定する。グループの対話活動を充実させるため、対話活動前には、いずれかのパートを除いたり、パートで歌わない生徒を設定したりしてパートの役割や全体の響きを感じさせるようにする。曲にふさわしい歌唱表現を生徒が主体的に考え、よりよい表現の工夫を仲間と話し合う対話的な活動を通して、音楽を創り上げる楽しさや合唱の深味を味わうことができるようになってほしいと願う。

(3) 題材計画

学習課題	学習内容	時間
曲に込められた思いを知り、曲にふさわしい発声でパート練習をしよう。	・作詞者作曲者の思いと、曲想やパートの重なりとの関わりに気づき、曲にふさわしい発声でパート練習をする。	1
パートの役割を考えて歌い、合唱の響きを感じよう。	・パートに分かれて曲全体を歌い、声の響きやフレーズの特徴を感受しながら練習し、気づいたことをワークシートに書き込む。 ・いずれかのパートを除いたり、パートで歌わない生徒を設定したりして聴く活動を通して、パートの役割や全体の響きを感じ、表現の工夫を考える。	1
曲にふさわしい表現と根拠の関わりを考えて、心に響く合唱にしよう。	・少人数の合唱グループに分かれ、表現の工夫をする部分を決め、グループでよりよい表現にするために話し合いながら練習し、発表する。 ・学級全体でグループの工夫を共有し、曲全体を合唱する。	1 (本時)

2 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ① 曲想やパートの役割を理解し、言葉の特性や四声の響きを考えて歌うことができる。
(知識及び技能)
- ② グループでの話し合い活動を通し、選んだ部分にふさわしい歌唱表現を試行錯誤しながら考え、歌おうとすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 言葉の特性や四声の響き、アゴーギクを仲間と話し合い、音楽をつくり上げる楽しさを感じながら合唱しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 研究の視点

①見方・考え方

曲のイメージや四声の響きを感受し、歌唱表現の工夫を、曲にふさわしい表現と根拠の関わりを基に捉える。作詞者作曲者の願いを表現する活動を通して、共感するとともに合唱の楽しさや深味を感じながら歌唱表現を考えること。

②深い学びの姿

曲にふさわしい表現と根拠の関わりを基に歌唱表現を工夫し、聴き手の心に響く表現方法に気づき、合唱することができる。

(3) 展開 (教科の見方・考え方を活用させるための手だて)

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 5	1 全体で「今、ここに」を合唱し、歌唱の際に意識したことや感じたことを発表する。 ・言葉の先頭は子音を意識して歌う。 ・順番に音が重なっていくのを感じながら歌う。 ・後で追いかけてくるところは、お互いが聞き合いながら歌う。	・前時に学習した、各パートの気を付けて歌うと良い点や、さらに合唱がよくなるための工夫を考えながら歌うように働きかける。 ・さらにより合唱にするためにどうしたいか投げかけ、グループでの練習意欲を引き出す。
問題 1	2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">曲にふさわしい表現と根拠の関わりを考えて、心に響く合唱にしよう。</div>	
追究 36	3 グループに分かれて表現の工夫をしたい場所を決めて練習し、話し合い活動を通してよりよい合唱にする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・フレーズの初めは子音と母音を丁寧に歌うと言葉が大切にできるから、少しゆっくりにして合わせて入ろう。 ・女声が飾りのところは休符を大切にすると明るい感じになる。男声は柔らかい歌い方だと歌詞みたいに透き通ったイメージになる。 ・繰り返し歌われる詞は、1回目、2回目とだんだん重みが出るように歌うと、気持ちが強くなっていく感じが伝わる。</div>	・よりよい表現にするために、 タブレット端末を使って、表現と根拠を関連づけて伝え合えるグループ練習の場を設定する。 ・工夫はできているが書き込みができていない グループには、聞き取りを通して言葉で表現できるように働きかける。 ・話し合いや練習が進まないグループには、練習部分の決定や話し合いの糸口を見いだすため、パート練習で意識したことや合唱を聴いて感じたことを問いかける。 ・書き込んであるが表現が伴わないグループについては、歌唱表現の助言をする。
	4 工夫したことをグループごとに発表して学級全体で確認し、全員で合唱する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・パートで同じ言葉がずれて出てくるところは、特に初めの音を意識すると、強調できる。 ・自分は伸ばしているところも、ほかのパートは音が変わるから響きを感じて歌うと曲にふさわしい澄み渡る感じが出る。 ・サビで突然4パートとも休符になるから、そこは全員でそろえると、タイトルの「今ここに」の答え「私は居て」というのが伝わる。</div>	・各グループの工夫を全体に伝えるために、タブレット端末に書かれた内容をプロジェクタで拡大投影する。 ・他グループの発表に共感したり、新たな工夫や表現方法に気づいたりしてつぶやきをしている生徒を称賛する。 ・全員合唱では工夫を見て合唱できるように、全グループの工夫をプロジェクタに投影する。
整理 8	5 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・他のパートと合わせたらハーモニーがとともきれいで、工夫も一緒にしたらもっと気持ちが伝わる合唱になって楽しかった。 ・楽譜上の音楽記号と曲想がつながって、歌っているうちにグループの子や作曲者と心が通じた気がして、楽譜にない工夫も考えることができた。</div>	・机間指導し、記述内容が課題から外れている生徒には、本時の課題と学習内容を確認するよう助言する。 ・課題に迫った振り返りや見方・考え方を働かせた記述をした生徒を指名する。

(4) 評価

①暖かい音色や言葉を大切にした息づかい、整ったハーモニーを意識した発声など、曲にふさわしい歌唱をすることができたか。(知識及び技能) ———活動3、4の様子と活動5の記述から

②パートの役割や全体の響きを考えたフレージング、旋律の流れ、全体の響きなどをグループで話し合っ て試行錯誤しながら練習し、よりよい歌唱表現を考え、合唱しようとすることができたか。

(思考力、判断力、表現力等) ———活動3、4の様子から

③歌詞や音楽記号、フレーズ、ハーモニーの移り変わりなどの根拠を基に、曲にふさわしい歌唱表現を仲間と話し合い、表現の工夫を楽しみながら合唱することができたか。

(学びに向かう力、人間性等) ———活動3、4の様子と活動5の記述から